

平成24年度病害虫発生予察特殊報第2号

平成24年12月17日
愛 知 県

1 病害虫名：スイカ果実汚斑細菌病
Acidovorax avenae subsp. citrulli

2 発生作物：スイカ

3 発生確認地域：三河地域（苗のみ）

4 発生確認の経過

平成24年3月下旬、本病原細菌に汚染された輸入スイカ種子が県内に流通したとの情報を得て、農林水産省名古屋植物防疫所とともに当該種子の購入者へ立ち入り調査を行った。当該種子及びその種子から育成した苗の大半は、種子の販売元からの要請に基づき既に処分されていたが、同時に同じ施設で栽培されていた別の品種の苗において、二次感染による本病の発生を確認した。

なお、この施設において発病した苗及びそれらの近隣で育苗された苗など、感染の可能性があると思われる苗は処分され、その後、本病の本ぽでの発生は確認されていない。

5 病徴

- (1) 葉、茎、果実で発病し、発芽後まもなくから収穫期までの、栽培全期間に発生する。
- (2) 苗では子葉や胚軸に水浸状の小斑点を生じ、その後拡大して褐色の大きな不整形病斑になる。胚軸が軟化腐敗し枯死することがある。
- (3) 本葉では水浸状の斑点を生じ、のち褐色の不整形病斑となる。病斑の周囲に黄色の退緑部分を伴うことがある。また、葉脈に沿って拡大することがある。
- (4) 果実では陽光面での発生が多い。平滑からやや隆起した水浸状の不整形病斑が現れ、これが拡大して暗緑色～黒色の大型病斑となる。大型病斑には亀裂を生じることがある。

6 生態

- (1) 病原細菌は主に種子で伝染する。感染種子を播種すると育苗中に発病することもあるが、発病せずに保菌苗となる場合もある。
- (2) 発病苗や保菌苗から、頭上かん水や降雨により二次伝染する可能性がある。
- (3) 接ぎ木や摘心などの管理作業で、広範囲に二次伝染する危険性が高い。
- (4) 20℃以上の多湿条件で発生が多くなるが、特に30℃から35℃の高温・多湿の環境で多発しやすい。
- (5) 果実では着果2～3週間目頃に最も発病しやすい。
- (6) 病原菌はウリ科野菜の種子上では2年以上、茎では6か月以上生存する。感染植物のこぼれ種子、果皮やつるなどの残渣が翌年の伝染源となる可能性がある。
- (7) 本病原菌による病害はスイカの他、メロン、トウガンでも自然感染の報告がある。

7 防除対策

- (1) 病原細菌に汚染されていない消毒済み又は検定済みの種子を用いる。
- (2) 育苗時はできるだけ少量の単位で管理し、二次感染を防ぐため接ぎ木用ナイフなどの器具類や手指は、少なくとも1単位ごとに消毒する。また、単位ごとに種子のロッ

ト番号を記録しておく。

- (3) 育苗用資材は消毒したものをを用いる。
- (4) 過度の灌水を避け、多湿にならないように管理する。水滴に伴う病原菌の飛散を防ぐため、できるだけ頭上灌水は避ける。
- (5) 早期発見に努め、発生が確認された場合、苗、土、育苗箱やポットは管理している単位ごと直ちに焼却や深く埋没するなど適切に処分する。

8 参考資料

(1) 病徴の写真

農林水産省ホームページ内

http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/pdf/bfbphoto.pdf

(2) ウリ科野菜果実汚斑細菌病防除マニュアル（一般栽培用）

野菜茶業研究所ホームページ内

http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/laboratory/vegetea/pamph/004271.html

9 連絡先

愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室

電話：0561-62-0085（内線471）